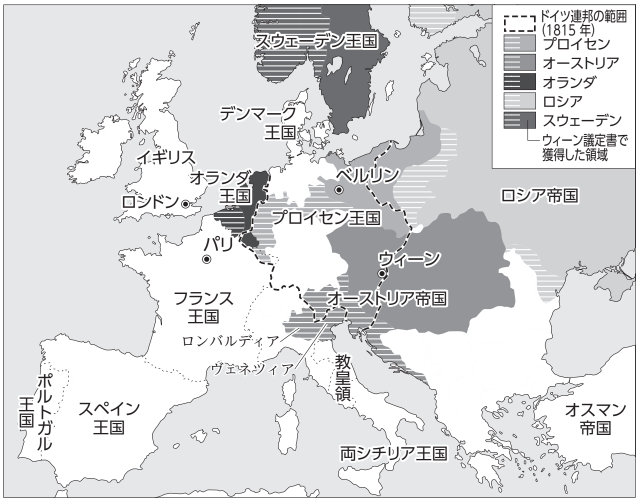
第 14 講 【近代編】ウィーン体制
PART1 ウィーン体制の成立と反動

Chapter 1　ウィーン体制の成立とその反動

目標
ウィーン会議で原則となった考え方について学ぼう。
ウィーン体制の反動にはどのようなものがあったのかを考えよう。

1　ウィーン会議とウィーン体制の成立



ウィーン会議当時のヨーロッパ勢力図

①［　　　　　　　　　　　　］の開催

1814 年，ヨーロッパ各国代表が集まり，ナポレオン戦争後の国際秩序について話し合う

A　［　　　　　　　　　　　　］（オーストリア外相（のち宰相））が主催

カースルレー（イギリス），**ハルデンベルク**（プロイセン），**アレクサンドル 1 世**（ロシア），［　　　　　　　　　　　　］（フランス）らが参加

B　会議の原則

あ　［　　　　　　　　］：フランス革命前の政治体制を正統とみなす

い　［　　　　　　　　］：大国間のパワーバランスを取る

②［　　　　　　　　　　　　］の調印

A　イギリス…オランダから**ケープ植民地**，**スリランカ**を獲得

B　フランス，スペイン，両シチリア王国…**ブルボン朝**が復活

C　ドイツ…**神聖ローマ帝国は復活せず**

→〔　　　　　　　　　　〕が成立したが，統一的な連邦とはならなかった

D　プロイセン…西ポンメルンなどを獲得し，領土を拡大

E　オーストリア…**ロンバルディア**，**ヴェネツィア**を獲得

F　オランダ…オーストリアから〔　　　　　　　　〕を獲得

G　ロシア…**フィンランド**を獲得

H　ポーランド…〔　　　　　　　　　　　　　　〕が成立→国王は**ロシア皇帝が兼任**

③〔　　　　　　　　　　〕の成立

自由主義と**ナショナリズム**を抑圧した復古的な国際秩序がつくられた

A　〔　　　　　　　　〕：ロシアのアレクサンドル１世が提唱した同盟

→イギリスやローマ教皇，オスマン帝国を除くヨーロッパの全君主が参加

B　〔　　　　　　　　〕：イギリス・オーストリア・プロイセン・ロシアによる軍事同盟を結成

→フランスがのちに加盟し，五国同盟に

2　ウィーン体制の動揺

ウィーン体制に反発する人々がナショナリズム運動をおこすが，いずれも鎮圧された。

①ドイツ

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕（学生同盟）運動

→**メッテルニヒ**により弾圧

②イタリア

秘密結社〔　　　　　　　　　　〕による改革運動も，失敗

③スペイン

スペイン立憲革命

④ロシア

ニコライ１世の即位に反発した青年将校たちによる〔　　　　　　　　　　　　〕の乱

まとめ

ウィーン会議では，正統主義と勢力均衡が原則となった。
ドイツではブルシェンシャフトが，イタリアではカルボナリが統一運動を進め，ロシアではデカブリストの乱が発生した。

Chapter 2　ギリシアとラテンアメリカ諸国の独立

目標
ギリシア独立戦争でイギリスやロシアがギリシアを支援した理由を考えよう。
ラテンアメリカの独立を進めた勢力を知ろう。

1　ギリシア独立戦争

①［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］の勃発

1821年，ギリシアがオスマン帝国からの独立運動を開始

②義勇兵の参加

イギリスの詩人**バイロン**など，ヨーロッパ中から義勇兵が参加。フランスの画家**ドラクロワ**が**「キオス島の虐殺」**を描く

③イギリス，ロシア，フランスの支援

イギリスはインドへの経路，ロシアは不凍港を求めてギリシア独立を支援

→ナヴァリノの海戦でオスマン帝国軍を撃破

④**アドリアノープル条約**

ロシアとオスマン帝国間で締結。ギリシアの独立を承認

→イギリスが危惧

⑤［　　　　　　　　　　　　　　］

1830年，ギリシアの独立が国際的に承認される

→ロシアの黒海北岸進出は失敗。のちに**東方問題**に発展

2　ラテンアメリカの独立

①独立運動の展開

植民地生まれの白人である［　　　　　　　　　　　　　　］を中心に独立運動が進む

→**ペニンスラール**（本国の白人）の支配に抵抗

※ラテンアメリカ社会では，ほかにも［　　　　　　　　　　　　　　］（白人と先住民インディオの混血）や**ムラート**（白人と黒人の混血）などの階層が存在。

②［　　　　　　］の独立

黒人の［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］が指導。フランス

から独立し，世界初の黒人共和国となる

→各地の独立運動に影響

③ラテンアメリカ諸国の独立

A　メキシコ…〔　　　　　　　　　　〕の指導

B　大コロンビア，ボリビア…〔　　　　　　　　　　〕の指導

C　アルゼンチン，チリ，ペルー…〔　　　　　　　　　　〕の指導

D　ブラジル…ポルトガルから平和的に独立

④パナマ会議

シモン＝ボリバルが提唱して開催

→ラテンアメリカ諸国の平和と独立維持のため，連帯を主張

⑤イギリスやアメリカの支援

A　イギリス

〔　　　　　　　　〕外交を展開

→ラテンアメリカ市場への進出を企図し，諸国の独立を支持

B　アメリカ

〔　　　　　　　　　　〕

でアメリカ大陸とヨーロッパの相互不干渉を主張

ラテンアメリカの独立

まとめ　イギリスはインドへの経路開拓を目的として，ロシアは不凍港を求める南下政策で，ギリシアの独立を支援した。
植民地生まれの白人であるクリオーリョを中心に，独立が進められた。

第 14 講　PART 1　確認問題

1 ウィーン会議を主催したオーストリアの外相（のち宰相）はだれか。

① カースルレー　② ハルデンベルク
③ メッテルニヒ　④ タレーラン

2 ウィーン会議の原則の一つで，フランス革命前の政治体制への復帰を目指す考え方はどれか。

① 正統主義　② 帝国主義
③ 勢力均衡　④ 国民主義

3 ロシア皇帝が提唱したウィーン体制を支える国際的枠組みはどれか。

① 第３回対仏大同盟　② 学生同盟
③ 神聖同盟　④ 四国同盟

4 イタリア統一を目指す運動をおこした秘密結社はどれか。

① トーリー党　② ホイッグ党
③ カルボナリ　④ デカブリスト

5 ギリシア独立戦争の様子を描いたフランスの画家はだれか。

① ラファエロ　② ドラクロワ
③ ボッティチェリ　④ バイロン

6 ラテンアメリカ諸国独立運動の中心となった植民地生まれの白人の呼称はどれか。

① ペニンスラール　② クリオーリョ
③ メスティーソ　④ ムラート

7 フランスから独立し，世界初の黒人共和国となった国はどこか。

① アルゼンチン　② チリ
③ ペルー　④ ハイチ

8 大コロンビア，ボリビアの独立を指導した人物はだれか。

① サン＝マルティン　② イダルゴ神父
③ トゥサン＝ルヴェルチュール　④ シモン＝ボリバル

第 14 講　PART 1　確認問題 解答

1 解答：③

ウィーン会議を主催したのはオーストリア外相の**メッテルニヒ**である。①のカースルレーはイギリスの，②のハルデンベルクはプロイセンの，③のタレーランはフランスの代表である。

2 解答：①

ウィーン会議の原則はフランス革命前の政治体制を正統とみなす**正統主義**と，勢力均衡の２つである。

3 解答：③

ロシア皇帝のアレクサンドル１世が提唱した**神聖同盟**にはヨーロッパの多くの君主が参加した。④の四国同盟はイギリス・オーストリア・プロイセン・ロシアによる同盟である。

4 解答：③

イタリア統一運動をおこした秘密結社は**カルボナリ**である。ロシアでは青年将校たちによるデカブリストの乱がおこったが，いずれも鎮圧され失敗した。

5 解答：②

フランスの画家**ドラクロワ**はギリシア独立戦争の際に「キオス島の虐殺」を描いた。

6 解答：②

ラテンアメリカ諸国の独立運動は**クリオーリョ**（植民地生まれの白人）を中心に進められた。①のペニンスラールは本国の白人，メスティーソは白人と先住民インディオの混血，④のムラートは白人と黒人の混血。

7 解答：④

フランスから独立したのは**ハイチ**で，トゥサン＝ルヴェルチュールが指導した。

8 解答：④

大コロンビア，ボリビアの独立を指導したのは**シモン＝ボリバル**である。①のサン＝マルティンはアルゼンチン，チリ，ペルーの，③のイダルゴ神父はメキシコの独立を指導した。